

石田 (現 立行事 722 \ 724、772 \ 775)

上石田 (現立行事 722 \ 724) 下石田 (立行事 772 \ 775) に分かれている。度々の佐賀瀬川の氾濫、ことに天文五年の「白髭の水」と云われた大洪水で、村の耕地は石河原となり開拓のやり直しをした。その際この地は石が物凄く開拓に困難を極めたので「石田」と名付けられたと云う。

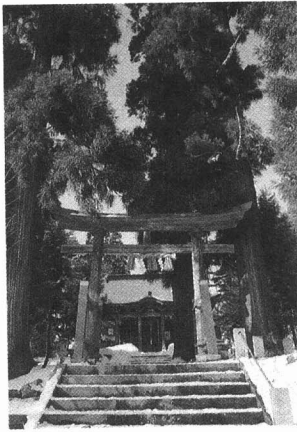
蟹田 (現 立行事 818 \ 824)

上カニ田・下カニ田に分かれている。

この耕地の殆どが砂地であったため、水路等は石と砂で造られた。そのため石の間は蟹の文化住宅となり沢蟹の繁殖が著しく、畦が崩される等蟹による被害に農民は泣かされていたところから「カニ田」と名付けられた。

稲荷下 (現 立行事 777 \ 785)

立行事稲荷神社の前で、村の西南に広がる土地で稲荷下と名付けられた。



○立行事稲荷神社

砂山 (現 立行事 786 \ 788)

開拓のときこの付近は砂利や砂ばかりで土が少なく、砂利・砂を採集して一ヶ所に山のように積んで置いた。この付近を砂山と呼んでいた。

澤 (現 立行事 1259 \ 1266)

上澤・下澤に分かれている。

佐賀瀬川が立行事の村中を西から東に流れた旧川筋で、天文五年の「白髭の水」と名付けられた大洪水が、村中を西から東に流れ澤となった河原地を開拓し上澤・下澤と呼んだ。昭和三十一年七月の大洪水も「白髭の水」と同じ旧川筋を流れ村を二分した。



澤

現在は圃場整備により整地され良田んぼとなっている。

古宮前 (現 古宮前 330 \ 343)

昔、稲荷神社が集落下の磐梯の角 (現新鶴駅前付近) に祀られてあったが、「白髭の水」等度々の洪水に社地が危険にさらされ現在の地に遷宮された。その神社跡地付近を古宮前と名付けられた。